

第1章 序 論

第1節 総合計画の策定にあたって

1 総合計画の目的

阿智村第5次総合計画〔2008（H20）～2017（H29）〕では、「住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能な村づくり」を基本理念として、住民主体の村政を継続・発展させるために取り組んできましたが、その計画期間が終了します。

この10年を振り返ると、リーマンショックに端を発した金融危機は、世界的な経済の冷え込みから、日本経済にも大きな影響を与えました。2011（H23）年3月に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらし、未だ収束の目処が立たない、原子力発電所の事故を引き起こしました。また、各地で地震災害、豪雨災害等が発生するなど、自然の猛威にさらされました。

日本は、2008（H20）年をピークとして人口減少局面に入り、2050年には人口が1億人を割り、2100年には5千万人を割り込むまで減少するとの推計があり、国は人口減少対策が喫緊の課題として、2014（H26）年にまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少対策に取り組み始めました。

このような中、清内路村との合併を経た新阿智村は、2015（H27）年に阿智村版人口ビジョン、総合戦略を策定し、人口減少対策に取り組み始めました。日本一の星空、花桃、昼神温泉等を活かし、多くの来訪者が訪れるようになり、交流人口を定住人口につなげることをめざしています。

一方、これからの10年についてみると、2027年開業予定のリニア中央新幹線の工事が本格的に始まり、三遠南信自動車道の開通も見据えたむらづくりへの取り組みも重要となります。

これまでの計画の成果を検証するとともに、住民意向調査やワークショップ、懇談会等を通じて、地域の皆さんと、これからの村づくりの課題、必要な取り組みについて検討を重ねてきました。

これらをまとめ、2018（H30）年度から始まる新たな村づくりプランとして、阿智村第6次総合計画を策定しました。

2 総合計画の位置づけ

阿智村第6次総合計画は、村の最上位計画となるもので、行政やむらづくりの羅針盤としての役割を持っています。

現状や今後の課題を踏まえて、今後10年間の進むべき方向を明確に示すことで、めざすべき将来像の実現に向けた取組を推進します。

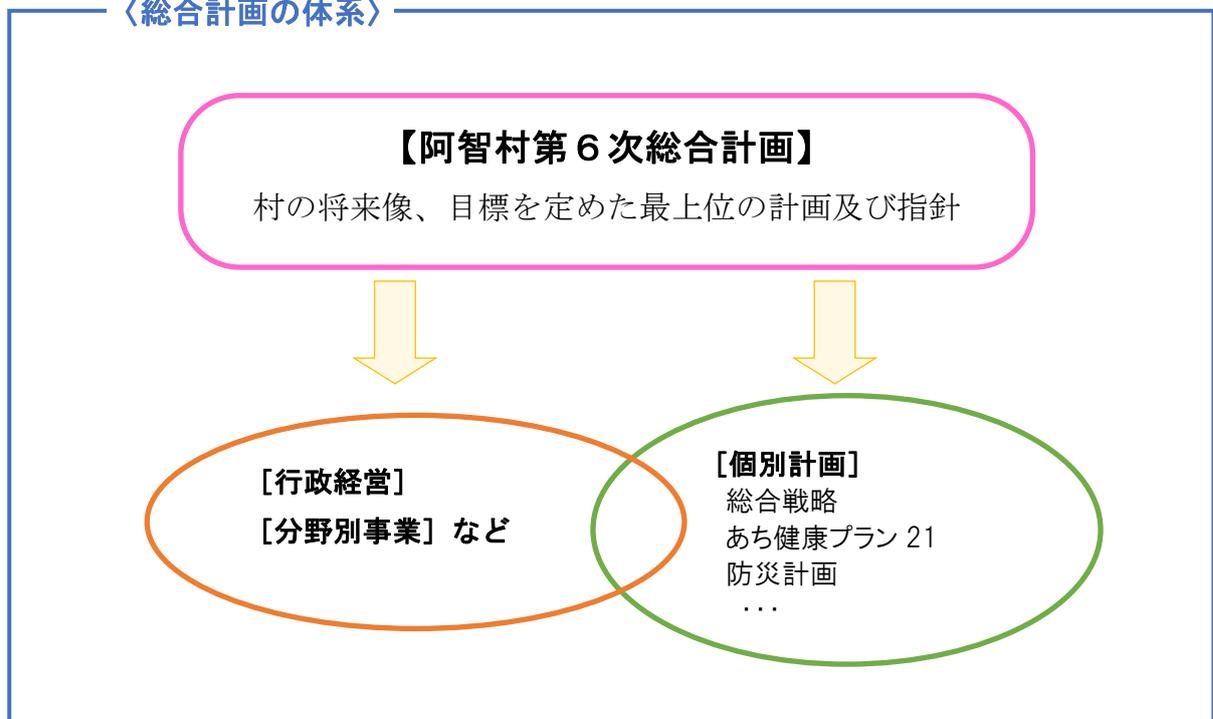
■ 村民と歩む村づくりの指針

村民と共にめざす、村づくりの姿を示し、協働の村づくりを進めていく指針となるもの。

■ 行政運営の指針

目標とする村の姿を実現するための総合的な行政運営の指針となるもの。

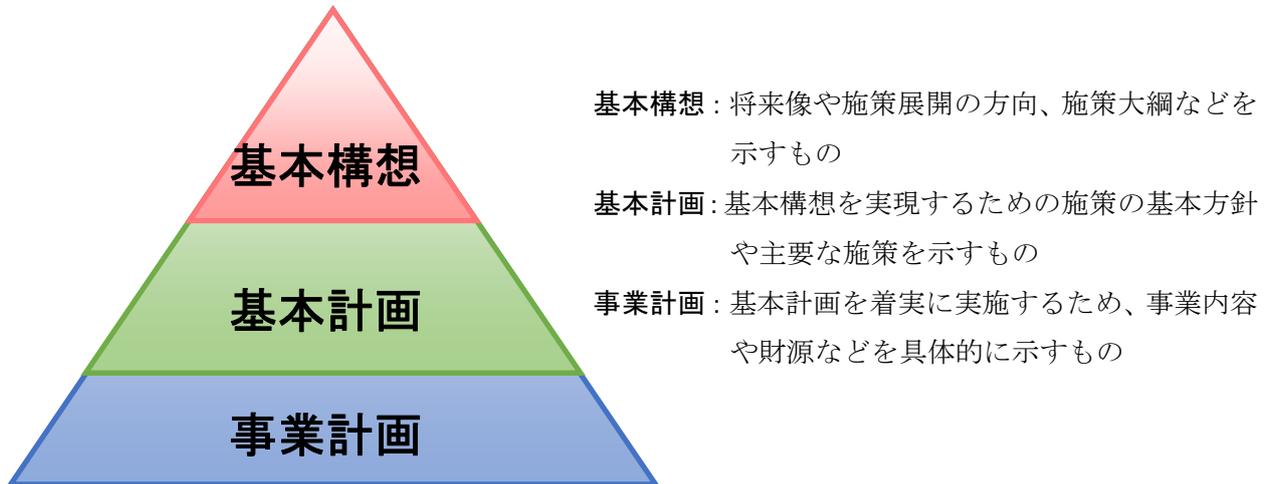
〈総合計画の体系〉



3 総合計画の構成と期間

阿智村第6次総合計画は、2018（H30）年度から2027年度までの10年間の計画です。

総合計画の内容は、村の将来目標を明らかにした「基本構想」と、これを実現するために行う施策を示す「基本計画」から構成しています。



（1）基本構想

本村の特色や課題、社会情勢の変化などを踏まえ、中長期的な視点で村がめざすべき将来像を示し、それを実現するための施策の展開方向や施策の大綱などを示すものです。

基本構想の計画期間は10年間です。

（2）基本計画

基本計画は、基本構想を実現するため、施策の基本方針や主要な施策を示すものです。計画期間は、本村を取り巻く社会情勢に応じて見直すため、前期基本計画と後期基本計画で構成し、計画期間は各5年間とします。

（3）事業計画

事業計画は、基本計画を着実に実施するため、事業内容や財源などを具体的に示すものです。前年度の検証・評価を行いながら、目標や効果を含めて毎年作成します。

【総合計画の構成と期間のイメージ】

